

行事って素晴らしい!

全校での久しぶりの行事、運動会を開催することが出来ました。1, 2年生のにとっては初めての、3年生も2年振りとなる運動会でした。密にならないように種目数や内容を工夫し、時間を短くして開催しました。

種目の工夫については…・学年種目をなくす。・ムカデ競走を行わない。・長い綱引きロープを購入し、間隔を開けて競技できるようにする。・クラスを二組に分け、少ない人数で大縄跳びを行う、…等。準備期間も短かったですが、その短い時間を使って学年での練習や3年生を中心としたブロックでの練習にみんな懸命に取り組んでいました。ブロックでの話し合いをもつこともでき、ブロックの全体練習では3年生がチームの組み方や競技のコツを丁寧に優しく下級生に伝えていました。

競技の最中も、「ナイスラン!」「ありがとう。」「お疲れー。」などの声かけが、学年を越えてありました。また1年生が大縄を飛ぶ時に3年生が間の手を入れたり、3年生の全員リレーがスタートする時に1, 2生が拍手で応援するなど、子どもたちの関わりがたくさん見られました。マスクを着けての競技であったり、保護者の方に自由に観戦していただくことが出来なかつたり(各家庭1名のみでの観戦をお願いしました)、制約は大きかったですが、子どもたちの懸命な姿をみて、「やっぱり行事は大事だなあ!いいなあ!」と感じました。運動会の実行委員長が緊張しながらする挨拶する姿。生徒会長が閉会式で全員の頑張りを総括して、自分達を褒めようと話した姿。また、全員リレーで運動が苦手だろうと思える生徒が懸命に走り、それをクラスの仲間が応援する姿。さらに、安心してリレーで抜かれることが出来る学級集団。どれもこれも、子どもたちの頑張りが成長、深い関わりや温かい関係が見られ、この行事を通しての成果だと感じました。行事はやはり大事です。そんなことを改めて実感させられた運動会でした。



関わる力とは…。

小田原市教育委員会による「令和3年度教育指導の重点」に、昨年度まではなかった内容が新たに加わっています。その具体は…

○関わる力の育成○

子どもたちが、人やものなどとの様々な関わりをもつことで、自分を高めていくことを大切にします。特に人との関わりの中で自己肯定感をもち、互いの良さを認め合い、高め合う場面を設定することで、関わる力を育みます。

というものです。この「関わる力の育成」を通じて、子どもたちが社会力を身につけ、充実した人生を送って欲しい。より良い地域社会を築いて欲しいという願いが込められています。

自分が考えるに、学校における「関わる力」の究極は、子どもたちが集団の中で、「認める」「褒める」「諫める」ことを行う姿だと思います。頑張っている友だちのことを「認める」、そして



そのことを「頑張っているね。凄いね。」と伝え「褒める」、間違っていることや誤った行動をとると仲間に「おかしいよ。もうやめなよ。」と「諫める」ことが出来る。そんな仲間との関係を築ければ、子どもたちは「関わる力」を大きく伸ばすことが出来るし、自分たちが居心地のよい集団が作り出せると思います。そんな仲間関係や学級集団が出来るように先生方と一緒に努めていきたいです。



コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について ①

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）は、保護者や地域が

学校の様々な課題解決のために参画し、それぞれの立場で主体的に子供たちの成長を支えていくための仕組みです。本年度から市内中学校で初めてこの制度が本校に導入されました。（市内小学校25校には導入済み）

コミュニティ・スクールを導入し、地域の方々が学校運営協議会の委員になることなどにより、学校関係者と協議会委員が情報や課題を共有したり、教育目標や目指すべき子供像について協議を行うなど、学校・家庭・地域の連携・協働体制を構築することが重要とされています。

保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」制度の導入により、地域の力を学校運営に生かし「地域とともにある学校づくり」を推進する。またこのことにより、子供が抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを構築し、質の高い学校教育の実現を図ることがこの制度の概要です。今後この制度の内容や成果について、詳しくお伝えしていきます。



強い集団であるために…

自分が小さい頃にはプロと言えば野球選手しかいませんでした。その後、1993年にサッカーのプロリーグ、Jリーグがスタートしプロサッカー選手が生まれました。今では、日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）、日本フットサルリーグ（Fリーグ）、アメリカンフットボール（Xリーグ）、卓球（Tリーグ）、ラグビー（トップリーグ）バレーボール（Vリーグ）等々、様々なプロリーグがあります。

プロ化されているそれらの競技は、かつては企業スポーツがその発展を支えてきました。企業スポーツとは会社の予算を使って、選手がその企業（会社）の仕事をしながら、勤務時間の中でスポーツに取り組むというものです。チームをもつその会社にとっては、企業イメージの向上や宣伝広告、働く人たちの連帯感を高める等のメリットがありました。しかし、1990年代以降、不況等の理由で300もの企業スポーツチームが休部や廃部によって消滅していきました。



Bリーグで今盛んなバスケットボールでも同じことがありました。NBL（ナショナル・バスケットボール・リーグ）に加盟していた多くの企業チームが、選手をリストラしたり部をなくしたりしていきました。その中で、アイシンという弱小チームは、リストラされたがまだバスケットを続けたいという選手に声をかけて、NBLの優勝をめざしました。リストラされた選手ですから、怪我を抱えていたり全盛期を過ぎている選手が多く、また弱小チームですから、チーム運営にもお金をかけられません。そんな中でも、チームがまとまり、苦労をしてNBLの制覇を成し遂げました。

そのリストラされた選手に声をかけチームをまとめ上げたのが、鈴木貴美一ヘッドコーチでした。その鈴木コーチの示した「アイシンバスケットボール部チーム心得」がとても心に残ったのでみなさんに示します。

これから中体連の最後の大会やコンクールに臨む3年生に捧げます。悔いなく戦ってください！

- ・雨や嵐があってもこそ晴れのありがたさがわかり、苦しみや悲しみを味わった人に本当の幸せがわかる。
- ・与える時は人は豊かになり、惜しむ時命は貧しくなる。
- ・異なる働きをしながら心を一つに合わせていくのがチームである。
- ・思いやりの心が貧しいと気づかずうちに人を傷つける。
- ・勝った時はチーム全員の力。苦しい時一番惨めな人間のことを考えられる人間になれ。
- ・仲間の不足を思うのはその人間の一面しか見ていないからである。
- ・逃避しないこと。一つのことが出来ない人間は他のことも出来ない。
- ・井の中の蛙になるな。チームメイトと比較しないこと。スポーツは自分自身との闘いである。
- ・十回やって一回勝てるとしたら、その一回を最初に持ってくればよい。
- ・ベンチの中で一人でも負けるかもしれないと思えば、試合には絶対に勝てない。
- ・マイナス思考にならず、プラス思考で常にいること。前向きに考えることが運を呼ぶ。
- ・欠点は人より時間がかかることなので、努力し長所を伸ばすことも決して忘れてはいけない。
- ・練習では一番下手だと思い、試合では一番うまいと思え。
- ・人が不幸になればいいなどと考えるな。それは最後に自分に返ってくる。幸せは精一杯努力して自分自身でつかむこと。
- ・感謝する心が自分自身の幸せの基盤となる。【抜粋：原文のまま】



このアイシンというチームの話が文庫本になっています。興味があれば是非…。幻冬舎文庫「ファイブ」